

新横第二 職場監査

遺失保管庫の常時鎖錠は鍵の全員所持で

新横第二では12月12日、遺失保管庫の常時鎖錠が朝の点呼で業務指示された。これは職場監査での指摘によるとされ、今後は必要に応じて鍵を開け閉めするようにせよというもの。しかし鍵の所持者は夜勤A・B番と日勤E番者に限られており、他の日勤者(C・D・F番)には渡されていない。これは日々窓口や電話対応で現物確認に苦労している担当者にはずこぶる不評で、もしこれを常態化するにはぜひとも鍵の全員所持が必要である。

現在新横では、届けられた遺失物は明細記録簿、管理端末(PCによる全社登録管理システム)に入力のうえ、鎖錠可能なスチール製キャビネットに保管されている。鎖錠は営業時間帯以外の夜間時にのみ行われていた。しかし監査では貴重品を扱う遺失業務では常時鎖錠がふさわしいとして、今後B番とE番者にも

鍵を所持させ業務に当たらせるとしている。しかしA・B番者とも車イス案内も兼ねており、E番者も業務用チラシやポスター、託送業務などで詰め所を空けることはよくあることであり、その際の遺失業務滞りは、現行業務から十分に考えられることである。詰所無人時の「留守電放送(テレスピ)」も業務指示されており、その際の保管庫仕切りドアと出入りドアの二重の鎖錠も義務付けられている。鍵の所持は実態に合わせて全員所持とすべきである。

12/15 分会旅行会

青梅鉄道公園と「かんぼの宿青梅」



今年の分会旅行会は小型バス貸切の青梅鉄道公園と青梅昭和レトロ街見学の旅と相成りました。昼食は忘年会を兼ね「かんぼの宿青梅」で一年の活動の労をねぎらいました。

「認可」の証明を確認していたとは思えない。六年も前に人権侵害と指摘されたJR東海の「ハンドル型」規制問題を、名目はどうあれ訴訟問題にまであらだてて争う姿勢は、やはり社会的には賛同は得られないだろう。

方乗車案内した同じ車イスについて事情聴取している。ハンドル型乗車案内について下車駅から問合せがあったという。たしかにハンドル型は「シニアカー」などと特定して案内注意の業務指示があった。しかし改札員も同僚もそんな規制に抵触しないだろうとして要請もかけ乗車案内も行った。また乗車駅でも問題なしとして「下車案内」を要請してきたのである。その誰もが「認可」の証明を確認していたとは思えない。六年も前に人権侵害と指摘されたJR東海の「ハンドル型」規制問題を、名目はどうあれ訴訟問題にまであらだてて争う姿勢は、やはり社会的には賛同は得られないだろう。

一寸五部

先日一風変わった前輪駆動型の電動車イスの下車案内をした。普通の手動車イスに一輪車様の駆動機付前輪がついた格好で、これをハンドル形式で操縦していた。旅客はスポートマンタイプで特注の車イスだったのかもしれない。詰所に戻ると管理者が同僚に朝方乗車案内した同じ車イスについて事情聴取している。ハンドル型乗車案内について下車駅から問合せがあったという。たしかにハンドル型は「シニアカー」などと特定して案内注意の業務指示があった。しかし改札員も同僚もそんな規制に抵触しないだろうとして要請もかけ乗車案内も行った。また乗車駅でも問題なしとして「下車案内」を要請してきたのである。その誰もが「認可」の証明を確認していたとは思えない。六年も前に人権侵害と指摘されたJR東海の「ハンドル型」規制問題を、名目はどうあれ訴訟問題にまであらだてて争う姿勢は、やはり社会的には賛同は得られないだろう。